

正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。
マタイ25章46節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中田 輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869
FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp



11月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ① 一般の意向：生活の普通の状態の中での夫婦の聖化
- ② 布教の意向：宣教地域での司祭の永続的養成
- ③ 日本教会の意向：神のみことばに親しむ

長崎教区「聖体の年」閉年行事の概略

以下、10月30日に行われた教区閉年行事(本部事務局の通達より)

教区主催による大司教ミサ

(ねらい) 昨年10月10日から始まった「聖体の年」の歩みは、小教区単位で始め、途中地区単位で推進し、最後は教区主催の大司教ミサをもって終了する。
(奉納の工夫) 各地区代表者により、この1年の振り返りの中で工夫された奉納がなされる。



「聖体の年」聖トマス西と15殉教者記念ミサ(中町教会)
10月2日(日)、大村市民会館にて「親石となつた捨石」というテーマのもとに「第30回大村殉教祭」が行われた。例年10月第3日曜に放虎原殉教地で行われていたが、今年第30回ということもあり場所と日を変えて行われた。福者の中には10人の高麗(現在の朝鮮半島)出身者も含まれており、今回は特に、韓国より「ソウル教区殉教者顕揚会聖歌隊」一行90人も参加し、殉教祭に彩りを添えた。
殉教祭ではまず、民族衣装を着た同聖歌隊が聖体賛歌や韓国の歌を披露した。アンコールには日

本歌曲「赤とんぼ」も歌われた。次に「鈴田牢からのメッセージ」と題して26聖人記念館長レンゾ師の講話があった。鈴田牢に入牢したスピノラ神父の手紙から、殉教者たちの勇敢さと周りの人への愛、そして牢内でミサをささげるためになされた努力などが語られた。記念ミサは香焼教会の堅信式を終えて駆けつけた高見三明大司教の司式のもと、韓国巡礼団同行のチョイ師(モンセニョール)と15人の司祭の共同司式でさげられた。
説教の中で大司教は、「新たな日本188殉教



死者の月・聖職者追悼ミサ
司式：高見三明大司教
日時：11月8日(火) 午前11時
場所：赤城聖職者墓地

司祭叙階式
司式：高見三明大司教
日時：12月17日(土) 午前10時
場所：城山教会
司祭受階者：アントニオ 山野聖嗣(聖アウグスチノ修道会)

「『裂かれたパン』であるキリストを必要とする人々」今日の社会は、悲劇的な事件に揺さぶられ、自然災害に打ちのめされて苦悩している。しかし、イエスはききょうも、感謝の心で「『裂かれたパン』のために」に「裂かれたパン」であるキリストの名によって福音を告げ、その証人となる。時にはそのいのちさえ犠牲にするほどに、兄弟たちのために「裂かれたパン」となる。聖母マリアの取り次ぎにより、信者、とりわけ宣教師たちが「全世界のいのちのために」に「裂かれたパン」として自分自身を差し出す共同体となるように。(参考「教皇庁宣教援助事業・日本事務局訳」)

祖母の葬式の頃はまだ土葬が一般的だった。大人男たちが前もって墓を掘りに行った。葬儀ミサの様子や説教はあまり覚えていないが、出棺し、ロザリオを唱えながら、共同墓地に行つて埋葬する一連の動作は鮮明に覚えている▼どうしても忘れられない音がある。それは、棺を墓穴に収めたあとの、最初の数回スコップで土を入れる瞬間の音だ。「ドサツ、バサツ」と鈍い音がして、遺族からは別れを惜しむ悲痛な声が漏れた。あの時の土を盛る音は、子どもにとつては故人が生きているこの世からはっきりと隔てられる音なのだと感じた▼今、実態をすべて把握してはいないが、おそらく土葬している地域はどこにもないかも知れない。長崎市も10年ほど前から土葬の許可が下りず、固く守ってきた教区司祭の土葬の伝統も維持できなくなった。赤城の墓地に眠る先輩はある時期から火葬されて埋葬されるようになり、赤城の聖職者墓地まで司祭同士の棺を担いでいく様子も絶えてしまった▼神が死者を復活させるのに火葬しているのが土葬だろうが何も妨げにはならないと思うが、「あなたは塵(ちり)であつて、塵に帰るものなのです」という言葉は個人的には土葬の方が実感できる。「ここに眠っている」という郷愁は、火葬の時代には薄れたかも知れない。死者の月、身近な墓地に行つて死者の復活に思いをはせるきっかけにしてほしい。

聖体の年(2004・10・10〜2005・10・23) 閉年
この1年の歩み・宣教への展望
いよいよ「聖体の年」も閉年となる。教皇庁では聖体年閉幕ミサが10月23日に行われた。この日は「世界宣教の日」であり、同日から開かれていた世界代表司教会議(シノドス)が閉幕する。また、長崎教区のこの1年の取り組みを振り返る。
【世界代表司教会議(シノドス)】第11回通常総会が、10月2日(日)から23日(日)まで開催された。総会のテーマは「聖体(エウカリスチア)―教会生活と宣教の源泉と頂点」。
【参加者の顔ぶれ】今回の世界代表司教会議には、118カ国から256人のシノドス参加司教が出席、256人のシノドス参加司教のうち、177人は司教協議会から選出された司教、39人は職務上の出席、40人は教皇の任命による出席。また、枢機卿は55人、総大司教8人、大司教82人、司教123人、司教協議会会長36人、修道者12人。
【祈りに支えられた会議】今回の世界代表司教会議は、何百万の信者が熱心な祈りをもって敬けんに参加する中で行われる点で、かつてない広がりを持つ。信者たちは、聖体の年の中で、感謝の祭儀の中ですでに出会った主をあらためて見いだす恵みを、主に祈り求めている。シノドス参加司教たちは、会議の実りを通して福音を告げ知らせるための新たな方向付けを現代人に示すことになる。「解説」とあわせてカトリック中央協議会ホームページを参考にしました。
【解説】シノドス(Synodus Episcoporum)
「シノドス(世界代表司教会議)」とは、もともと「ともに歩む」という意味のギリシャ語で、一定時に会合する司教たちの集会を意味する。教皇と司教たちとの関係を深め、信仰および倫理の擁護と向上、規律の順守と強化のための助言をもって教皇を補佐する。また、世界における教会の活動に関する諸問題を研究する。シノドスは、提起された問題を討議し、教皇に意見を具申するが、決定機関ではない。会議に関する権限は、すべて教皇にある。シノドスには、通常総会と臨時総会がある。特定地域または複数の地域に直接に関連する問題を取り扱う特別会議が開催されることもある。
ちなみに今回のシノドスの日本代表には、2004年2月に開催された2003年度臨時司教総会で、横浜教区の梅村昌弘司教が選出され、参加した。

『啓示憲章』40周年記念
国際会議開かれる
第2バチカン公会議の公文書「神の啓示に関する教義憲章」(略)『啓示憲章』の発布40周年を記念して、国際会議が9月14〜18日にローマで開かれ、司教60人以上と東方諸教会・プロテスタントの代表を含め、97カ国から約400人が集まった。司教協議会代表として高見大司教、平林冬樹師(イエズス会)、フランシスコ会聖書研究所から和田幹男師(大阪教区)、聖書百週間関係からミシェル・クリスチャン師(淳心会)と信徒2人が参加した。大会では、公会議で強調されたことのひとつである「すべての信者が聖書に親しむように」という勧めを今後さらに推進していくことなどが話し合われた。

2005年「世界宣教の日」
教皇メッセージに学ぶ
10月23日の「世界宣教の日」メッセージの日付は2月22日、聖ペトロの使徒座の祝日となっている。例年に倣いこの日に教皇ヨハネ・パウロ2世はメッセージに署名し、世界宣教の日を発表した。メッセージから、聖体の年以後の私たちの使命を学ぶ。
【教皇ヨハネ・パウロ2世のメッセージに倣う】「聖体の年」である今年



意味と、聖体に生かされ殉教した人たちの信仰を熱く語った。
ミサに引き続き、殉教時代の日本の教会を支えていた「聖体の組」の旗を先頭に、原城址の三の丸まで聖体行列を行った。聖体賛美式の中で、1620年9月28日付けで島原半島の信者代表が書き送ったローマ教皇への手紙が朗読され、聖体に生かされてきたかつての日本の教会の姿を今一度確認した。
遠くは宮崎、熊本、五島からまた小神学生、コレジオ生や修道者、信徒、司祭ら約500人が集まり、決意を新たにしました。

祖母の葬式の頃はまだ土葬が一般的だった。大人男たちが前もって墓を掘りに行った。葬儀ミサの様子や説教はあまり覚えていないが、出棺し、ロザリオを唱えながら、共同墓地に行つて埋葬する一連の動作は鮮明に覚えている▼どうしても忘れられない音がある。それは、棺を墓穴に収めたあとの、最初の数回スコップで土を入れる瞬間の音だ。「ドサツ、バサツ」と鈍い音がして、遺族からは別れを惜しむ悲痛な声が漏れた。あの時の土を盛る音は、子どもにとつては故人が生きているこの世からはっきりと隔てられる音なのだと感じた▼今、実態をすべて把握してはいないが、おそらく土葬している地域はどこにもないかも知れない。長崎市も10年ほど前から土葬の許可が下りず、固く守ってきた教区司祭の土葬の伝統も維持できなくなった。赤城の墓地に眠る先輩はある時期から火葬されて埋葬されるようになり、赤城の聖職者墓地まで司祭同士の棺を担いでいく様子も絶えてしまった▼神が死者を復活させるのに火葬しているのが土葬だろうが何も妨げにはならないと思うが、「あなたは塵(ちり)であつて、塵に帰るものなのです」という言葉は個人的には土葬の方が実感できる。「ここに眠っている」という郷愁は、火葬の時代には薄れたかも知れない。死者の月、身近な墓地に行つて死者の復活に思いをはせるきっかけにしてほしい。

「聖体の年」も閉年を迎える。長崎教区でこの1年、どのような取り組みがなされたのか、また「聖体の年」は何を長崎教区民にもたらしたか、「よきおとずれ」で取り上げた記事をもとに振り返る。

【教区共通の取り組み】

●2004年10月10日(日) 開年の行事が各小教区で行われ、開年のその日に聖体賛美式を行った。いよいよ「聖体の年」が幕を切つて落とされた。

●「キリストの聖体の祭日」に合わせて、各地区で聖体礼拝または聖体行列を行うこととした。3地区に分かれる前の長崎地区では、先取りして2月27日に合同初聖体を行っている。

●教区主催の閉年の行事も10月30日(日)とすることが決定した。この閉年のミサの中で、各地区が取り組んだ内容をシンボル化してささげるにより主の食卓にあずかる者の一致を表現した。

【教区から示された指針】

聖体の年を実りあるものとするため、教区からは4つの指針が示された。

1. 「聖体の秘跡」について学ぶこと
2. ミサと生活とが結びつくよう考え、工夫すること
3. 聖体への信心を深める典礼行事を積極的に取り入れること
4. 聖体に関する体験の作文や聖歌作曲の募集

聖体の年「長崎教区内での取り組み」

この指針に沿う形で典礼委員会は2005年の活動を展開した。定期的に「典礼研修会」を開催する中で、特に3つの研修テーマが目をつけた。

- ・「降誕祭を準備する」
- ・「生け花による典礼表現」
- ・「聖体礼拝と賛美式」

いずれも、礼拝に密接に関わる部分であり、研修を受けることで聖体の年をよりよく過ごす効果が期待できるテーマであった。

【小教区単位の取り組み】

a. 聖体の永久礼拝
今年は、巡回教会も含めたすべての教会が例年行っている輪番(りんぱん)制の永久礼拝にもしっかりと意識をもつて望むことができた。今年は顕示された聖体に留まるイエスの現存がいつも以上に感じられる取り組みとなった。



また、小教区によっては月に1度か2度、聖体礼拝の時間を設けた小教区もある。



b. 横断幕(バンナー)の掲示

教会の祭壇、あるいは脇祭壇に横断幕(バンナー)を掲示した教会もあった。それは教会に入るすべての機会(日曜日の礼拝、週日の礼拝、教会学校や掃除のときであっても)に、今年が聖体の年であり、この聖堂に聖体が安置されていることをより強く意識する動機付けとなった。



【地区単位の取り組み】

各地区で、それぞれ行われている行事が、「聖体の年」に合わせてさまざまな工夫を盛り込んで行われた。例えば下五島地区では、「聖体について」の子ども作文コンクールを実施し、「井持浦ルルド祭」で作文の表彰式を織り込んだ。佐世保地区では聖体大会を開いたり、教区の輪番制で行われる永久聖体礼拝を充実させるため、ロザリオの年に行った十字架のリレーが行われた。平戸・北松地区では、「平戸ザビエル祭」に46人の初聖体の子どもたちが喜びを共にした。

【広報誌「よきおとずれ」の取り組み】

a. 特集記事
「よきおとずれ」では、機会あるごとに「聖体の年」を意識させる記事を心がけたが、その中でも読者に強い関心を持ってもらったのは「私とご聖体」のシリーズであろう。全部で27人の聖体への思いを掲載し、読者から貴重な声をいただくことができた。

b. 教皇文書の学習
特集記事の一つではあるが、教皇ヨハネ・パウロ2世の使徒的書簡「主よ、一緒に泊まりください」を聖スルピス大神学院院長の牧山強美神父にていねいに解説をいただいた。40ページほどの文書なので、解説をもとに、もう一度読み味わってもらいたい。



【聖体の年に与えられる免償】

2000年の大聖年にも大きく取り上げられたが、今年の聖体の年でも「免償」が与えられた。免償を受けるための3つの要件(罪の傾きから完全に離れようとの意思のもとでの、①ゆるしの秘跡、②聖体拝領、③教皇の意向のための祈り)のもとで、聖体への礼拝を行う聖なる典礼にあずかるたびごとに全免償が与えられる。免償とは、すでにゆるされた罪に伴う有限の罰の免除(軽減)という意味。全免償はこの恵みが完全に与えられる。

【教区の取り組み】

本部事務局を通じて、教区は機会を逃さず聖体の年の取り組みを企画してきた。なかでも教区行事として特に取り上げたいのは、司祭助祭の叙階式である。今年3月には3人の教区司祭と2人の助祭(うち1人は聖アウグスチノ会で、12月には司祭に叙階予定、9月にも教区の助祭が1人誕生している)。

【その他・ホスチア作り】



「ホスチア作り」はまさに「隠れた施し(善行)」である。純心聖母会の奉仕には本当に頭が下がる。修道女たちの奉仕は「隠れたことを見ておられる父」の目に、高い奉仕である。

この「ホスチア作り」は現在後継者を必要としている。後継者と言ったが、奉仕で引き受けてくださるアクション団体とか、任意のグループを立ち上げ、このホスチア作りを安定した形で引き受けてもらえる方が望ましいとのことである。

以上、「よきおとずれ」でも取り上げたものを主体に、長崎教区での「聖体の年」を概観した。この「聖体の年」をあらためて振り返るという意味でも、広報誌「よきおとずれ」をさかのぼって熟読することも、個人にとつての「聖体の年」を締めくくるとも、と言えるのではないだろうか。

(編集長 中田輝次)

寄付

- 長崎コレジオ
- お告げのマリア修道会
- 十字修道院
- 匿名様
- 長崎カトリック神学院
- 匿名様(平戸地区)
- 匿名様(長崎地区)
- 右の方々からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

香典返し お礼とご報告

- 長崎カトリック神学院
- 川上豊子様(黒崎)
- 故パウロ川上 健様
- 村上 博様(八尾市)
- 故マリア村上ツヤ様(出津)
- 深堀繁美様(浦上)
- 故エリザベト
- 深堀キヌ子様
- 古果 優様(奈留)
- 故アグネス
- 古果シズエ様
- 山田澄枝様(浦上)
- 故ドミニコ山田 忍様
- 中島昭和様(黒崎)
- 故マダレーナ中島キヌ様
- 右の方々から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごいしづから心からお祈り申し上げます。

ふどう園

長崎地区信徒の集い

11月13日(日)13時 長崎大司教館・体育館 長崎ブルーグラスファミリーによるミニコンサート、講演、質疑応答 講師・溝部脩高松教区司教 長崎地区信徒使徒職評議会主催

▼イエズス会立山修道院

お知らせ ●日帰り黙想

①11月21日(月) ②12月5日(月) 10時〜15時半 ●

1泊2日黙想 ①11月26日(土)〜27日(日) ②12月10日(土)〜11日(日) 初日17時〜翌日15時半

TEL 095(821)4577

▼公開講座「信仰を育む家庭の役割」 11月20日(日)13時半〜16時 相浦教会 講師・古巣馨師(島原教会) 当日子供の一時間無料 入場無料 お告げのマリア修道会主催

▼研修会「降誕祭を準備する」 11月27日(日)13時半 上神崎教会 参加費・500円 申込先・(11月20日締切) カトリック神学院内

TEL 095(844)1096

平成18年度 児童・生徒募集

精道三川台小・中学校(男子)

公開授業と説明会 中学校 12月3日(土)10:30〜
説明会のみ 小学校 11月12日(土)10:30〜

〒852-8121 長崎市三川町1234-1
Tel 小学校 095-845-6846 中学校 095-845-6161
http://academic1.plala.or.jp/seidomik

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

〒852-8013 長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎(095) 862-2469

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有)小田警備保障

警備員募集!

電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523

長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 テレジア 小田寿美子
専務取締役 パウロ 小田 睦

平成18年度 児童・生徒募集

長崎精道小・中学校(女子)

【公開授業・説明会】小学校 1月28日(土)10:00〜
【説明会のみ】小学校 11月9日(水)
中学校 11月14日(月)・1月28日(土)

〒852-8123 長崎市三原2丁目23-33 Tel 095-848-4766
http://academic1.plala.or.jp/seidomih

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

**たつみ産業株式会社
西田商事株式会社**

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有)栄光式典社

代表取締役 ハウロ 西村 勇夫

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

聖トマス西と15殉教者

記念ミサ(中町)

9月25日午後1時から、長崎南地区の聖体の年を



旧浦上天主堂
寄贈の総科大生に
感謝状(浦上)

浦上教会内のフロアに旧浦上天主堂が立派に再建され(写真)、信徒の目を集めている。

この天主堂は長崎総合科学大学建築学科(長崎市網場町)の松尾有平助手研究室の備瀬涼子さん、大屋奈津子さん、堤千

(絵) が行列の先頭に並び、祭壇前に設置され、その様子は殉教者が共におられて祭儀が行われて



いるようであった。

26聖人殉教者に隠れて十分に知られていない聖トマス西と15殉教者のことを少しでも知ろうと、プラカードが設置される間に子供たちによる殉教者の紹介が簡潔に添えられた。

説教の中で大司教は、今日の記念ミサを良い機会としてキリストの愛を

紘さんの3人が1年がかりで製作した模型で、被爆60年にあたって浦上教



会に寄贈されたもの。長さ175センチ、長方形の台座は幅約100センチ、鐘楼の高さ70センチと、旧天主堂の縮尺50分の1。

「旧天主堂のデザインに基づいて製作された貴重な模型です」と主任司祭平野 勇師。天主堂の骨組みは木材、プラスチック

ファミリーフェスト2005

9月19日

(月)カトリックセンターで、「ファミリーフェスト2005(家庭の祝祭)」が、教区家庭委員会、マリッジ・エンカウンター、

2世をしのび、前半は夫婦愛、いのちに開かれた家庭、祈りなど、福音を生きた体験談や子供たちによる歌や体験談、劇が披露され、また、家庭に



フオコラーレの共催で開かれたファミリーフェスト。祝祭は、家庭を愛された故教皇ヨハネ・パウロ

関する朗読や音楽演奏があり、祝祭をより美しく飾った。後半は、若者による歌や体験談、世界中のファミリーフェストの報告も行われた。

約150人の参加者には、結婚講座(教区家庭委員会主催)受講者の姿もあり、全員から祝福を受けた。

司祭団ソフトボール大会

恒例の「司祭団ソフトボール大会」は9月27日、長崎市柿泊運動公園で開催した。福岡教区をはじめ大分教区からは宮原良治司教、遠くは鹿児島、



表彰式

クルシリョ

上五島地区と長崎地区

第114回クルシリョ

は、9月16日夕方から19日の夕方まで、上五島地区の司祭団、クルシリョの献身的な指導と協力によって青方カトリックセンターで開かれ、指導司祭三村誠一師(相浦)のもとに14教会から22人(男11、女11)が参加した。

参加者は次の通り。
青方1 大曾1 青砂ヶ浦3 冷水1 丸尾3

アガタ

道向千鶴子修道女(お告げのマリア修道会)



9月30日、五島市聖マリア病院で帰天。兵庫県尼崎市出身。68歳。1955年入会。60年初誓願宣立、68年終生誓願宣立。入会后、農作業に精励。77年から15年間保育園の調理員として勤務。その後修道院で野菜作り、病人の世話、雑用など陰の奉仕で会員たちを支え、なくてはならない姉妹として皆に慕われていた。晩年は病に倒れ、祈りの人として病床で会員を支え、50年の奉獻生活を全うした。すべての

アグネス 古巣シズエさん

(古巣師実母)



10月5日、大腸がんのため入院先の五島市聖マリア病院で死去。82歳。五島市奈留町生まれ。代々の隠れキリシタンの

気の中で過ごすことができたと思います。今後の宣教・司牧生活を頑張りましょう」とあいさつ。夜は親睦会も行われ盛況だった。

成績は次の通り。
AパートⅡ優勝 長崎地区A。準優勝 五島チームB。パートⅡ優勝 福岡・大分連合チーム。準優勝 修道会チーム。新人賞Ⅱ 岩下和樹師(浦上)

各方面から数多くの熱心なお祈りと犠牲によって、聖霊に満たされた参加者は、キリストと真の出会いを体験し、神への深い信仰と人々への愛の実践にその決意を秘めて最善を尽くすと誓った。

最終日、司祭団参加の派遣ミサにあずかり、参加者一同、その決意に力が注がれた。

務めを忠実に、病床にあっても愛を込めて接する明るい人柄のシズエさんは修道会会員・地域の人々に親しまれ愛された。葬儀ミサと告別式は10月2日、川原拓也神父主司式のもと、6人の司祭によって三井楽教会にて執り行われた。

カ月後、末期の乳がんを切除。息子の司祭叙階と自らのがん発症の年を重ねて「同級生」と呼び、それからの日数を恵みの時として生きていた。

「人の前で疲れたと言わうな。言うたら報いは終わる。疲れたら、神さまにそっと言いなさい。良くしてくださるから」。

古巣さんが子供たちに残した言葉。葬儀ミサと告別式は6日、30人の司祭たちの司式により奈留教会で行われた。

被爆医師 秋月辰一郎さん死去

享年89歳

長崎平和推進協会初代理事長など務め、平和運動の中心的役割を果たす。秋月さんは1992年10月、核戦争防止国際医師として勤めていた浦上

療養中だった聖フランシスコ病院院長・アシジのフランシスコ秋月辰一郎さんは、10月20日午前8時55分、長崎市小峰町の聖フランシスコ病院で呼吸不全のため死去。享年89歳。

長崎平和推進協会初代理事長など務め、平和運動の中心的役割を果たす。秋月さんは1992年10月、核戦争防止国際医師として勤めていた浦上



勲章伝達式での秋月医師夫妻



親者のみで営まれ喪主は妻秋月寿賀子さん、お別れ会を11月27日(日)午後1時から開く。会場未定。

被爆地長崎は、今年8月60周年を迎え、記念映画として秋月医師をモデルにしたプロダクション製作の

親者のみで営まれ喪主は妻秋月寿賀子さん、お別れ会を11月27日(日)午後1時から開く。会場未定。

被爆地長崎は、今年8月60周年を迎え、記念映画として秋月医師をモデルにしたプロダクション製作の

親者のみで営まれ喪主は妻秋月寿賀子さん、お別れ会を11月27日(日)午後1時から開く。会場未定。

長崎の青年たちの感想②

★私は、今回初めてWYDに参加しました。多くの人の支えによってこのような経験ができたことを感謝すると同時に、この経験が無駄にならないよう次につなげていきたいと思います。(長崎コレジオ2年・西田諭志)

★WYDに参加して、自分自身と向き合い良い所、悪い所をあらためて発見することが出来ました。大勢の人々が同じ目的を持って歩む姿にとっても感動しました。神の導きに心から感謝しています。(深堀教会・赤石優子)

★WYDを振り返ってみると、それは「本当に大きな出会い」だったと言えます。世界中の青年たちとの出会いは意味深く、そして私の信仰、そして召命において素晴らしい助けとなりました。(長崎コレジオ4年・山頭牧夫)

★私がWYDに参加して一番良かったと思うことは、本当にたくさんの人たちと出会えたことです。中でも他教区の青年たちと色々なことについて語り合えたことが大きな刺激になりました。(純心聖母会志願生・高橋美保)



アジアの青年たちの文化交流

アジアの青年たちの文化交流
約2千人が歌や踊りを通して文化交流を深め、日本巡礼団は浴衣やハッピー姿で「マリア音頭」と迫力ある「よさこいソーラン節」を披露。プロ



りてケルン大聖堂へ。私たちがタイミング良く見かけることのできたパパス(写真右)は、優しい表情をしていて、とても穏やかな印象だった。

「教皇歓迎式典の日のライン川」



8月16日、本大会の開会ミサはケルン、ボン、デュッセルドルフの3会場で行われた。参加者総数は40万5千人を超えた。日本巡礼団は、レーマン枢機卿司式のデュッセルドルフ・L.T.U.アリーナでのミサ(写真左上)に参列。熱気に包まれた場内では、青年たちがしきりに色とりどりの旗(国旗やパチカンの旗大会のシンボル

大会期間中の生活は日常とはまるで異なる。配給される食事はパンや缶詰が主で、大混雑のためこの食事すら受け取れないことも多い。また、日中は夏らしい暑さだが、朝晩は極端に冷え込み、宿舎では寝袋とマットなどで夜を明かす。移動の際は、交通機関に常に大勢が押し寄せ、乗車できず見送ることもあった。慣れない環境に疲労困憊。でも、青年たちは、キリストとの出会いへと着実に歩み続けた。

マーク旗などを振り、開会の喜びを表した。ケルン大聖堂巡礼とアジアユースギャザリング
翌17日、ライン川沿いを歩きケルン大聖堂を訪れた。高さ157m・奥行き144m・幅86mの大聖堂はゴシック建築様式で、ステンドグラスも大変美しい。東方三博士の聖遺物が納められた箱や祭壇などを目にし、大聖堂の威容さに触れることができた。その後ボンでア

ジャン・ユース・ギャザリング(AYG)に参加した。約2千人が歌や踊りを通して文化交流を深め、日本巡礼団は浴衣やハッピー姿で「マリア音頭」と迫力ある「よさこいソーラン節」を披露。プロ



第20回世界青年の日 2005年
ワールドユースデー(WYD)ケルン大会

「わたしはイエスを拝みに来たのです」②
カテケジス(公教要理)と教皇歓迎式典
18日朝、大塚喜直司教(京都教区)によるカテケジスが行われた。司教は、「どうぞイエスさまに信頼し期待し、愛されていることを信じてください。人は神に出会うため苦しみを悩むが、そういった人生を過ごすことが神へのささげものです」と語り、青年たちは大会に参加した理由を探しているもの、気づいてきたことを見つめ直した。この日の午後、ライン川両岸は教皇ベネディクト16世を歓迎する人々であふれた。白い衣をまとった教皇は船上からあいさつ、式典後は船を降

みことばにふれて 16
尾高修一神父



「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない(ヨハネ11章25・26節)」
11月は死者の月です。家族や親戚、恩人や友人で亡くなった方はいませ

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない(ヨハネ11章25・26節)」
11月は死者の月です。家族や親戚、恩人や友人で亡くなった方はいませ

新平戸市長選挙
4市町村の合併で生ま

れた新平戸市の市長選と市議選は、10月30日告示、11月6日投票が行われ

る。市長選は旧平戸市長白浜信氏、旧平戸市議会議長西川克己氏、旧田平町長山崎雄士氏の3人が立候補の予定。白浜、西川の両氏はカトリック

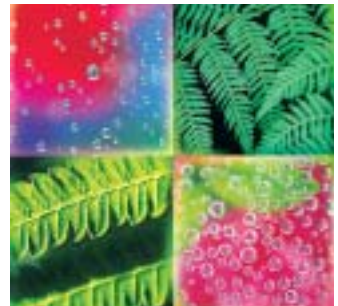
追悼・平和祈願ミサ
永井博士

島根県雲南市三刀屋町の永井記念館前庭で9月11日「永井隆博士(写真)追悼・平和祈願ミサ」が行われ、信徒、雲南市市長、韓国如己の会の巡礼団が参列、祈りをささげた。

追悼・祈願ミサが行われた記念館は1970年、博士が幼少時代を過ごした三刀屋町に建てられ、長崎市立永井記念館と姉妹縁組を結んでいる。

銅版画「親指のマリア」
130年ぶりに里帰り
長崎歴史文化博物館で公開

「親指のマリア」と呼ばれている、銅版画の聖母が、130年ぶりに里帰り、一般に公開される。



長崎県政だよりによると、11月3日オープンする長崎歴史文化博物館(長崎市立山町)内の奉行人所コナーに、クリスタン禁制下の1708年、宣教のため屋久島に上陸して捕らえられたシドッチ師(イタリア人宣教師)の持参品で、17世紀後期のイタリアで制作された銅版画、聖母の油絵。

銅版画はシドッチ師の死後、長崎奉行所に保管されていたが、現在、長崎歴史文化博物館に指定され、東京国立博物館に収蔵されている。この聖母の銅版画、衣から親指の指がのぞいて見えるため「親指のマリア」と呼ばれている。

平成18年度 園児・児童・生徒募集
幼稚園・小学校・中学校
【幼稚園】願書受付 平成17年11月1日(火)～
面接日 平成17年11月16日(水)
【小学校】願書受付 平成17年11月1日～11月11日
面接日 平成17年11月21日・22日
オープンスクール 平成17年12月3日(土)
◎認可を受けた、聖母保育園を併設しています。
◎学童保育を実施しています。
◎幼・小・中利用できるスクールバスがあります。
◎幼・小・中通した、兄弟在籍減免制度があります。
◎小・中通して3人目以降の方は、授業料全額免除。
マリアの丘では、0歳児から15歳児までのお子様を安心して預けただけで、教育環境を整えています
〒852-8023長崎市若草町6番5号tel 095-844-1549

NP0 法人 浦上の丘福祉支援サービス
・ヘルパーステーション えびら ・移送支援サービス 浦上の丘
地域の中で個人の人格を尊重し 安心して生活できるように
それぞれにあった介護サービスを提供します
住所 長崎市江平2丁目10-24
電話 095-845-3294 担当 岩永まで
【新設につきヘルパー募集】
教会パンコ・祭壇・朗読台・家庭祭壇
浜口木工所
ヨハネ 浜口知博
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎(0956) 23-1867

チケット好評発売中
能による被爆六十年の夕べ
新作能長崎の聖母
日時：11月23日(水)午後5時開演
Aブロック前売券6000円(当日券7000円)
Bブロック 5000円(6000円)
Cブロック 4000円(5000円)
会場 浦上天主堂(長崎市本尾町)
主催 純心女子学園・カトリック浦上教会
取扱い 浦上教会・浜屋プレイガイド・ローソンチケット・チケットぴあなど
問合せ 長崎純心大学生涯学習センター
〒852-8558 長崎市三ツ山町235
☎095-846-0102